

高知県福祉事業財団
令和元年度 事業報告書

－ はじめに －

昨年5月から平成が終わり令和の時代となった。この「令和」には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められているとのことだが、現実の社会は厳しいものがあり、昨今の虐待件数の著しい増加に見られるように子育て世帯を取り巻く環境は複雑化、深刻化し、家庭において適切な養育が受けられない子どもへの対応が依然として大きな課題となっている。

令和元年度は、平成28年改正の児童福祉法の理念(児童が権利の主体、家庭的養育優先の原則等)とそれを受けた社会的養育ビジョンをもとに、高知県において2020年度からの10年を期間とする社会的養育推進計画の策定が進められた。

こうした中、当法人においては、子どもに寄り添いながら、子どもの健全な発達と自立に向けた養育を行うとともに、これまで以上に社会の変革に対応できる人材の育成に力を入れ、ステップアップのための自己研鑽や各種研修会等への積極的な参加を継続して実施した。

また、令和元年度も新しい人材確保のための職員採用試験を実施し、延べ14名の受験のもと、子どもの家2名、愛童園2名を正職員として採用するとともに、職員のスキルの向上と組織の活性化を目的とした施設間の人事異動を実施することとした。

一方、念願であった昨年度から着手している丸の内保育園の改築工事は、令和2年2月に無事工事を完了し、3月からは鉄骨造4階建ての新園舎にて保育を開始した。

以下、高知県福祉事業財団5施設は、令和の時代にふさわしい社会の実現を願い、児童憲章や児童福祉法等の理念をふまえ、本年度に掲げた事業計画に次のとおり取り組んできた。

昭和24年の開園以来70年余りが経過した。この間の子どもを取り巻く環境は大きく変化をし、それにともない入所理由も変わってきた。開園後に子供の家から社会に巣立っていった児童、あるいは家庭等に復帰した児童は合計1,020名に及んでいる。

平成28年に児童福祉法が大幅に改正され、権利の主体者をより明確に児童と位置付けるとともに、さらに家庭支援が強化されることとなった。

子供の家では児童福祉法や子どもの権利条約の理念のもと、平成28年12月に策定した子供の家の運営理念、運営目標に基づき、児童の最善の利益のために、養育及び自立支援に取り組んできた。

◎令和元年度（平成31年度）事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

（1）児童の権利擁護

- ① 被措置児童への虐待防止研修を始め様々な研修に職員を参加させるとともに、職員会や施設内研修を通じ、養育者としての資質の向上に努めた。
- ② ブロック会や意見箱、さらに児童アンケート等により児童の声の把握に努め、個々の児童に応じた養育に取り組んだ。

（2）児童の養育・支援

- ① 心理療法担当職員を3名配置しきめ細やかなケアを実施するとともに、担当職員、心理士、看護師等の専門職が連携し児童に応じた養育に努めた。
- ② 教員退職者、大学生等のボランティアの協力を得て学習会を実施するとともに、意欲のある受験生には学習塾を積極的に活用し学力の向上を目指した。

◆医療的ケア

- 医療的ケア対象児童数 24名
- 全児童延べ受診者数 969名
- 主な医療機関 医療センター・高知大附属病院・高知赤十字病院
療育センター・近森病院・細木病院

◆心理療法

- 心理療法対象児童数 16名
- 年間延べ実施日数 240日
- 1日当たり平均実施時間 1時間

◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

- 個別対応対象児童数 8名
- 個別対応年間実施日数 100日
- 1日当たり平均実施時間 30分

◆令和2年3月に中学又は高校を卒業した児童の進路状況

進学先	高 校		大 学	
	高知北高校	1名	岡山大学	1名
高知工業高校	1名	筑波大学	1名	
高知小津高校	1名	高知情報ビジネス&フード専門学校	1名	
高知東高校	1名	高知職業能力開発短期大学校	2名	

(3) 家庭支援の強化

- ① 社会福祉士の資格を持つ職員等2名を家庭支援専門相談員として配置し体制の充実を図り、関係機関と連携し家庭支援に取り組んだ。
- ② 児童と家庭の関係再構築のために、面会、外出、一時帰宅などを児童相談所とも連携しながら積極的に促進した。

(4) 事故防止と危機管理

- ① 防災マニュアルを随時見直すとともに、年間避難訓練計画に基づき火災、地震、津波を想定し、様々な形で避難訓練や消火訓練を実施した。
- ② 備蓄食料等の点検を随時行うとともに、地域の避難所としての役割を果たすため、日頃より積極的に地域活動に参加をし地域との関係を深めた。

(5) 家庭的養育の推進

- ① 将来の全ブロック小規模化を目指し、小規模グループケアを6ブロックとするともに、各ブロックに専任職員を2名配置し、地域分散化を見据え職員のスキルアップに取り組んだ。

(6) 関係機関連携と地域支援

- ① 地域の地縁組織や関係機関との連携のもと、地域の子育て支援のニーズや情報の収集に努めた。
- ② 7自治体と業務委託の契約を締結し、ショートステイの受け入れを行った。

(7) 職員の資質と施設運営の向上

- ① 階層別研修や専門職研修に積極的に職員を参加させ、スキル、キャリアアップを図った。
- ② 職員会、ケース検討会等の各種会議を適宜行い情報の共有化を図り、施設運営の向上に努めた。

◆各種研修会等への参加状況

○全養協関係	1回／2名	○中四国養協関係	3回／10名
○県養協関係	6回／22名	○全社協関係	1回／2名
○各種専門研修	2回／4名	○県社協関係	1回／7名
○法人内研修	8回／189名	○その他	8回／17名

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
定員（暫定）	70名 (58名)	70名 (56名)	70名 (54名)	70名 (52名)	70名 (51名)
在籍児童数	42名	46名	38名	47名	45名
職員数	37名	36名	40名	38名	39名

※職員数：臨時・パートを含む

◆令和元年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	47	47	46	46	48	47	47	47	46	46	46	46
入所	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1
退所	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1

◆学年別児童数

令和2年3月31日現在

	就 学 前		小 学 校						中 学 校			高 校			そ の 他	計
	3歳 未 満	3歳 以 上	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年		
男	0	7	1	0	2	0	2	2	2	1	2	3	3	2	4	31
女	0	2	0	3	1	0	3	1	1	0	1	1	0	2	0	15
計	0	9	1	3	3	0	5	3	3	1	3	4	3	4	4	46

※自立支援1名を含む

◆入所主訴理由別児童数

令和2年4月1日現在

入所理由	人 数	構成比
養育困難	25人	55%
身体的虐待	4人	9%
心理的虐待	4人	6%
性的虐待	1人	2%
ネグレクト	13人	28%
合 計	47人	100%

◆保育士、社会福祉士、介護等施設実習生の受入れ(県立大学、高知大学、高知工科大学、高知学園短大、龍馬ふくし専門学校、高知福祉専門学校等)

◆一時保護委託の状況(受託先:児童相談所)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和元年度	5名	5名	337日
平成30年度	7名	7名	310日
平成29年度	—	—	—

◆子育て支援短期利用事業(契約先:高知市・南国市・安芸市・土佐市・いの町
佐川町・日高村)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和元年度	5名	7名	96日
平成30年度	6名	6名	29日
平成29年度	2名	2名	6日

◆令和元年度主要な年間行事

- 4月 小・中家庭訪問、日教組高知・高知市教組来園
- 5月 子どもの日バイキング
- 6月 輪抜け祭
- 7月 浦戸湾・七河川一斉清掃、梅の実会来園
よさこいメダル作り、幼児ブロック川遊びBBQ、福祉施設スポーツ大会
- 8月 ぶどう狩り招待
- 9月 鏡川ライオンズ BBQ 招待、江陽小教員との交流会
- 10月 インフルエンザ 予防接種(1回目)
- 11月 本庄だんじり祭ばやし来園、フィリップ・モリスジャパン来園、ちぐさ祭り招待
インフルエンザ 予防接種(2回目)、中央ライオンズみかん狩り招待
- 12月 韓国民団招待、総合避難訓練、市長サンタ来園、高知教会クリスマス招待
子供の家クリスマスバイキング、国丸ラーメン招待
- 2/1月 正月、新年夕食会
- 2月 節分豆まき、日赤赤野奉仕団来園、国丸ラーメン招待
- 3月 真宗寺招待
- 通年 「散髪奉仕団・風」による散髪奉仕(毎月第4月曜日)
FD試合招待、子ども劇場招待、その他多数の招待・来園

開園以来58年が経過する中、子どもと子育てを取り巻く環境はもちろん、児童養護施設の置かれた状況も大きく変化してきた。この間に愛童園から社会に巣立った、あるいは家庭等に復帰した児童は327名を数える。

近年、子どもや家庭をめぐる課題は複雑化、深刻化しており、特に親の離婚、貧困や子どもの発達障害などを背景とした虐待を入所理由とする児童が増加している。そのため、個々の児童に対し細やかなケアが求められる場面が多くなっており、職員には高い専門性とケアワークが求められている。また、国の「新しい社会的養育ビジョン」を受けた施設の小規模化、高機能化、多機能化への取り組みも喫緊の課題となっている。

愛童園は、児童の最善の利益のために、関係機関や地域社会と連携を図りながら、児童の幸せと心身の健やかな発達成長を見守り、社会的な自立に向け取り組みを進めた。

◎令和元年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 児童の権利擁護

- ① 職員に施設内外の研修に参加させるなど、人権感覚を磨き、養育者としての倫理観や責任感を持って児童に対応できるよう資質の向上を図った。
- ② 日々の養育のなかで「こどもの最善の利益」を常に意識して養育にあたるとともに、児童からの意見の聞き取りや意見箱の設置等により、児童の意見を表明できる環境整備に努めた。

(2) 児童の養育・支援

- ① 日常的な生活援助と併せて、発達障害や知的障害のある児童に対し、学校や医療機関等と連携してその障害の程度に応じた支援に取り組んだ。
- ② 学習ボランティアの協力も得て、学習環境の整備を行い、日々の学習支援に取り組んだ。
- ③ 児童が自ら選択できるよう必要な情報の提供や助言を行うとともに、児童の希望したところに進学できるよう学校等と連携し支援を行った。また、自立生活が安定していない卒園生への助言、見守りなどの支援も継続して実施した。

(3) 心理的ケアが必要な児童への支援

- ① 在園児童の半数以上が心理療法を必要としており、自立支援計画の中に児童の心理的支援目標を設定し、児童相談所や専門機関とも連携した計画的な支援に取り組んだ。
- ② 精神医学分野の知識習得のため、児童の発達過程に応じた支援のあり方について、芸西病院の理学療法士等と連携して個別のケース検討会を実施した。

◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

- 個別対応児童数 8名
- 個別対応年間実施日数 35日
- 1日当たり平均実施時間 45分
- 心理担当職員との連携及び職員会での連絡、情報交換の実施

◆令和2年3月に中学校、高校を卒業した児童の進路状況

児童	区分	性別	進学	就職	進路等の状況
1	中学	男	○		私立太平洋学園高等学校
2	高校	男	○		私立大阪国際大学

(4) 家庭支援の強化

- ① 児童と家庭の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを児童相談所との調整のもと積極的に行った。
- ② 児童相談所や家族の居住する市町村とのサポートケアなどを踏まえ、家庭支援専門相談員を窓口とした家族への働きかけや家族からの相談を受けるなど、児童と家庭との関係調整を図った。

(5) 事故防止と安全対策

- ① 事故防止マニュアル、事故事件等対応マニュアルに基づいて対応し、インフルエンザ等の流行期には予防措置を徹底した。また、新型コロナウイルスへの感染予防のため、手洗い、咳エチケットの徹底等にも取り組んだ。
- ② 防災対策マニュアルに基づき各種避難訓練を定期的を実施した。
- ③ 園内研修として警察署員を講師に招き、交通安全講習、防犯講習を実施し、交通安全の徹底と不審者への対応方法、留意点などを確認した。

(6) 家庭的養護の推進

- ① 家庭的養護の推進には、職員による養育の質の向上が不可欠であり、各種研修会へ積極的に参加した。
- ② 「高知県社会的養育推進計画」の策定を見据え、施設の多機能化、高機能化の検討を進めるとともに、小規模化の取り組みとして、園舎近隣にある職員宿舎において分園型小規模グループケア、2ユニットを整備するための改修設計に着手した。

(7) 関係機関連携と地域支援

- ① 要保護児童対策地域協議会に参加し、見守りの対象となる児童や家庭の情報を共有して対策を協議し、実践に努めた。
- ② 学校や児童相談所と連携し、支援会、面接など児童の支援状況により、家庭も含めての情報共有に努めるとともに、一時保護等の受け入れを行った。

◆一時保護委託の状況（受託先：児童相談所）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和元年度	3名	5名	158日
平成30年度	3名	3名	26日
平成29年度	0名	0名	0日

◆子育て支援短期利用事業（受託先：香南市、安芸市、香美市、芸西村、室戸市）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和元年度	1名	1名	7日
平成30年度	3名	7名	9日
平成29年度	1名	6名	8日

（8）職員の資質と施設運営の向上

- ① 児童の養育全般、虐待・発達障害等の専門分野別研修など、県内はもとより全国、中四国で実施される研修に参加し、職員のスキルアップを図った。
- ② 外部講師による園内研修として、「権利擁護研修」を実施し、児童福祉法の理念に基づく施設での養育について改めて確認し処遇の向上を図った。
- ③ 第三者評価結果の指摘や指導を踏まえ、施設としての課題を職員で共有し、マニュアルの見直しなどを行った。

◆各種研修会等への参加状況

- 全養協関係 4回／5名 ○中四国養協関係 4回／6名
- 県養協関係 5回／8名 ○各種専門研修 12回／12名
- その他 8回／11名

また、全員参加の園内研修(トラウマ、権利擁護、救命、交通安全、防犯)のほか、施設実習終了後「児童の処遇のあり方」について実習生反省会を兼ねた研修会を5・9・2月の年3回実施した。

（9）里親支援の推進

- ① 4月から里親支援専門相談員を配置し、里親関係の各種会合、研修会に参加し里親支援体制の強化を図った。
- ② 関係機関と連携のもと里親実習生を2名受け入れ、里親育成に努めた。

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
定員（暫定）	30名 (28名)	30名	30名	30名 (29名)	30名 (28名)
在籍児童数	24名	23名	22名	20名	21名
職員数	16名	17名	19名	19名	20名

※職員数：臨時・パートを含む

◆令和元年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	20	20	18	19	19	19	20	22	22	23	21	22
入所	0	0	1	0	0	1	2	0	1	0	1	0
退所	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1

◆学年別児童数

令和2年3月31日現在

就学前			小学校						中学校			高校			その他	計
	3歳未満	3歳以上	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年		
男	0	3	0	0	1	0	0	2	1	2	1	1	0	0	0	11
女	0	3	1	1	2	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	10
計	0	6	1	1	3	0	0	2	1	3	1	1	2	0	0	21

◆入所主訴理由別児童数

令和2年3月31日現在

入所理由	件数	構成比	入所理由	件数	構成比
父母の行方不明	1	4.8%	虐待	5 (4)	23.8%
父母の離婚	0	0.0%	経済的理由	2	9.5%
父母の拘禁	1	4.8%	精神疾患・入院	0	0.0%
父母の傷病・入院	1	4.8%	措置変更	6	28.5%
父母の養育困難	5 (2)	23.8%	その他	0	0.0%
			合計	21	100.0%

() 内は、措置変更児の当初措置理由

◆令和元年度主要な年間行事

- 4月 新年度ホーム編成、花見会
- 5月 GW買物、施設実習(龍馬学園)、第1回中央児相サポートケア
- 6月 第1回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議、施設実習(龍馬学園)
- 7月 七夕祭り、園内研修(救急救命)
- 8月 安田川キャンプ、消防訓練、香取神社夏祭り参加
- 9月 施設実習(高知学園短大)、小・中学校合同運動会、高校体育祭、第2回中央児相サポートケア
- 10月 第2回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議、保育・幼稚園合同運動会、夜須町民運動会
- 11月 夜須八幡棒打ち参加、園内研修(トラウマ)
- 12月 開園記念、競輪選手会もちつき、クリスマス会
- 02/1月 お正月、消防訓練、園内研修(権利擁護)
- 2月 節分豆まき、施設実習(高知福祉専門学校)、第3回中央児相サポートケア
第3回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議、遠足
園内研修(防犯、交通安全)
- 3月 卒園式

昭和22年、戦後の混乱期に恩賜財団同胞援護会高知支部の経営により高知県最初の母子寮として、相生町に「千草母子寮」（定員5世帯）を開設しました。

その後、経営組織を改組し、社会福祉法人高知県福祉事業財団を設立し今日に至り、平成9年児童福祉法の改正により「母子生活支援施設ちぐさ」と名称も変更となりました。

平成10年には現在地に移転新築(定員30世帯)し、母と子が一緒に生活できる唯一の児童福祉施設として、広く県内外から母子を受け入れてまいりました。

百石町に移転以来令和2年3月末までに188世帯が入所し、166世帯が自立してまいりました。

これからも母子の権利擁護に努め、自立に向けた支援に努めてまいります。

◎令和元年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 母と子の権利と尊厳の擁護

母と子が一緒に生活できるという特徴を持った唯一の施設として「ちぐさ理念」に掲げ、それぞれの生活課題に向き合い、安全な居場所の提供と自立に向けた考えを尊重しその歩みをともにした。

(2) 利用者の意向を意識しつつ目標設定を行い、切れ目のない支援の展開

年度当初に17世帯の支援計画書を作成し、毎月2回の職員会でその課題を共有し、随時見直しながら対応に努めた。

(3) ハローワーク等就労支援機関と連携し、経済的自立への道筋をつける。

延べ求職者5名。そのうち同行支援はハローワーク(はりまやジョブセンター)4名。就職に至らず。

(4) 子供の育ちを保障するために、養育・保育に関する支援を行う。

延べ526名の幼児の預かり保育を実施した。

(5) 母親に対して基本的な生活習慣の支援

育児はもとより掃除、食事、入浴に関して未熟な母親が多くその都度職員が部屋に入り、手伝い助言した。とりわけ若年の特定妊婦については、時間を決め集中的に支援を行った。

(6) DV被害からの回避・回復のため、広域利用や一時保護委託の受入を行う。

令和元年度は3名の広域利用(市外)があった。

また平成19年度から高知県女性相談支援センターと一時保護委託契約を結んでおり、2世帯を延べ11日間受け入れした。

(7) 地域ニーズに対応するため、ショートステイ・トワイライトステイを実施する。

令和元度は受け入れなし。

(8) 防災・減災対策の実施

毎月1回避難訓練を実施。コロナウィルス感染予防のため毎年実施している消防署員による消火訓練、地震の講話、非常食の試食会は中止とした。

(9) 職員の資質と施設運営の向上

母子生活支援施設協議会や社会福祉協議会の各種研修、関係機関等の主催する事例検討会等に26回延べ34名が参加し、それぞれのスキルアップに努めた。

◆年度別入所者数・職員数

各年度3月31日現在

年 度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
定数（暫定）	27世帯 (22)	27世帯	27世帯	27世帯 (26)	27世帯 (22)
入所世帯数 入所人数	24世帯 61名	24世帯 54名	15世帯 38名	17世帯 43名	22世帯 55名
職員数	9名	9名	10名	10名	10名

※職員数：臨時・パートを含む

◆令和元年度 月別世帯数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	17	17	18	18	18	19	20	20	22	22	22	22
入所	0	0	1	0	0	2	1	0	2	1	2	1
退所	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	1

◆令和2年3月31日現在の入所世帯状況 (定員27世帯 暫定22世帯)

入 所 世 帯 の 状 況	入所者数	22世帯55名 (内児童数33名)					
	市内・県内外別世帯数	高知市内 ⇒8		県内市町村 ⇒13		県 外 ⇒ 1	
	主たる入所理由	D V ⇒7		住居の確保 ⇒2		養育支援 ⇒ 13	
	在所年数	5年以上/9		3~5年/0	1~3年/4		1年未満/9
	就労者の状況	常雇 2名		パート 5名		無職 15名	
	母親の年齢構成	10代/1名	20代/6名	30代/8名	40代/7名	50代/0名	
	子どもの年齢構成	乳幼児 11名	小学 13名	中学 7名	高校 2名	大学 0名	

◆各種研修会等への参加状況（26回／34名）

- アレルギー児対応研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・1名
- ほっとぽーと第1回勉強会・・・・・・・・・・・・・・・・・・1名
- 第8回子どもと施設の権利擁護全国ワークショップ・・・・1名
- 第41回全国母子生活支援施設職員研修会・・・・・・・・・・1名
- 所内事例研修《子供の家》3回・・・・・・・・・・・・・・・・・・3名
- 事例研修《女性相談支援センター》5回・・・・・・・・・・・・5名
- 南部地区高知市児童虐待対応研修2回・・・・・・・・・・・・2名
- 南海トラフ地震臨時情報に関する説明会・・・・・・・・・・・・1名
- 佐川町虐待防止研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2名
- 令和元年度県児童養護施設等基幹的職員研修 2回・・・・・・2名
- 福祉サービス苦情解決セミナー・・・・・・・・・・・・・・3名
- DV対策連携支援ネットワーク会議専門者研修・・・・・・1名
- 子どもの虐待防止推進全国フォーラムinとっとり・・・・1名
- 令和元年度ファミリーソーシャルワーク研修会・・・・・・1名
- 中四国ブロック母子生活支援施設研修会・・・・・・・・・・・・4名
- 高知市エリア医療関連感染対策研修・・・・・・・・・・・・・・1名
- 警察の役割と関係機関との連携・・・・・・・・・・・・・・1名
- 全国母子生活支援施設研究大会・・・・・・・・・・・・・・3名

◆主な年間行事

- 4月 母親健康診断(1回目)
- 5月 鯉のぼり昼食会、退寮者との集い
- 7月 高知市スポーツ交流会フットサル
ハイキング(四国カルスト、セラピーロード)
- 8月 土佐山田まつり参加、第66回よさこい祭り参加、DVD鑑賞会
巨峰園プール招待(3回)、母親健康診断(2回目)
- 11月 ちぐさ秋まつり、みかん狩り
- 12月 クリスマス会

子育て支援センター あい

地域子育て支援拠点事業として、子育て中のお母さんお父さんが、子育てが楽しくなるよう子育て情報交換・育児相談を行うとともに、親子が楽しく遊べる場所を提供するなど地域の子育てを応援した。

また、毎月子育て通信「あい」を発行し、行事内容の紹介を行うとともに（高知市保育幼稚園課・高知市子ども育成課・南部健康福祉センター等にも送付）、市や他サークルの講座パンフレットを備えるなど、子育て支援のための情報提供に取り組んだ。

また、潮江市民図書館やおもちゃ図書館に子育て通信「あい」を置いてもらったり、

ポスターを毎日屋、マルナカ、マックに掲示した。さらにネット利用の多い実情もあり高知県の「こうちプレマnet」に載せて広く広報に努めた。

◆職員数 2名（主任指導員及び指導員）、

令和元年度の登録児童数 130名	
事業内容	① 育児相談 361件 (参考：平成30年度 263件・平成29年度 148件・平成28年度 108件)
	② 育児講座・・・実施回数34回 ※参加延べ人数 701名 (親：471名 子：230名)
	③ 遊び場提供 ○開所日数 239日
R元年度施設利用状況 延べ人数 4,830名 (親：2,425名 子：2,405名)	
参考	：平成30年度 延べ人数 5,653名 (親：2,540名 子：3,113名)
参考	：平成29年度 延べ人数 5,748名 (親：2,698名 子：3,050名)
参考	：平成28年度 延べ人数 5,577名 (親：2,668名 子：2,909名)

令和元年度育児講座内訳

開催月	講座名
4月	みんなで遊ぼう。お花あそび。手づくりこいのぼり。
5月	いろいろなおもちゃで遊ぼう。お花あそび。手づくりカエル。離乳食教室。
6月	歯のはなし。お花あそび。手づくり七夕かざり。
7月	救急時の判断。お花あそび。手づくりキラキラペット。
8月	防災のはなし。手作りキーホルダー。
9月	調理実習幼児食。お花あそび。手づくり敬老ハガキ。
10月	あいあい運動会。お花あそび。
11月	のいち動物公園へ遠足。お花あそび。離乳食教室。手づくりストロー飛行機。
12月	クリスマス会。お花あそび。手づくりクリスマスツリー。
1月	陶芸講座。お花あそび。手づくりコマ。
2月	親子ふれあい講座。お花あそび。手づくりおひなさま。
3月	お楽しみ会・・・中止となりました。手作りお面

開園48年の本園は、開設以来高知街地区の「たかしろ乳児保育園」とともに高知市乳児保育の推進役を果たしてきました。

近年、核家族化、少子化の進行、子育て家庭の地域からの孤立、子育て不安の増加等、子どもと子育てをめぐる環境が大きく変化し、すべての子どもたちの健やかな育ちを支えるとともに、入所する子どもや保護者に対する適切な支援が求められています。

また、家庭や地域など様々な社会との連携を図りながら、それらに向けた取り組みが行われています。

子ども子育て支援新制度が進められる中、子どもの連続した発達の保障、質の高い保育を目指し、研修体系の構築、専門性の向上を目指しています。

◎平成31年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 安心して過ごせる家庭的な環境の中で一人ひとりを大切にされた保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障

- ① 乳幼児期における情緒の安定や信頼関係の形成、一人ひとりの発達に応じた適切なかわりに留意し、質の高い保育、教育の安定的な提供に努めた。
- ② 保護者、家庭の生活の実態、子ども達の現状をしっかりと把握し、安心して安全に園生活を過ごすことができるよう職員間の共通理解のもと取り組んだ。

(2) 早出・居残り、乳児保育、特別支援（障がい児）保育等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供

- ① 入所する子ども達の育ちを支え、保護者の子育てを支えるため、0歳児の途中入所を多く受け入れた。
- ② 発達の気になる子ども、貧困など社会的な支援の必要性が高い子どもや家庭を含め、子育て家庭や子どもの育ちをめぐる環境の変化をふまえ柔軟に対応した。

(3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、保育所地域活動事業の実施

- ① 敬老の日の訪問では、地域の高齢者宅、デイケア施設等に行き、うたを歌ったり手作りのプレゼントを手渡し、健康を願うメッセージを届けるなど、人をいたわる優しい心を育むことができた。
- ② 校区である第六小学校との保小連携の機会を持ち、小学生の園への行事参加や、年長児も小学校での遊びを通して就学に向けての興味が持て、職員間でも合同研修をし、連携を図ることができた。
- ③ 地域の「100歳体操」に参加するお年寄りとの交流会に年長児が参加し、わらべ歌、ふれあい遊び、伝承遊びなど一緒に楽しむ機会が持てた。
また、本園のPTA行事の際には、周辺の店舗にポスターを掲示させていただくなど、交流を図ることができた。

(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援

- ① 保護者との関係性を大切にし、相談事に耳を傾け、保健師、保育士による面談、相談の機会を設け、園全体で子育て及び家庭支援の強化を図った。

- ③ 家庭環境に対する配慮等、保護者の悩みや子どもの育てにくさに対して相談を受けたり、園長、主任、家庭支援加配保育士、担任が密に話し合い、専門機関とも連携をとりながら園としての対応を考えたり、園全体で共有し、家庭や子どものありのままを受け止めるよう取り組んだ。

(5) 保育士の資質向上と保育水準の向上について

- ① 施設内外の研修に計画的に参加し、職員の自己研鑽に必要な機会の確保に努め、研修後は職員会等で内容を共有した。
- ② 子ども・子育て支援制度、改定保育所保育指針についての理解等、一人ひとりが課題を明確にすることができた。

(6) 保護者の就労支援の為、延長保育、土曜午後保育の実施

- ① 保護者の就労支援の為、保育の必要な家庭対象に平日午後7時まで、土曜日は午後5時30分までの保育を実施した。

(7) 津波避難計画に基づいた避難訓練や防災活動への積極的な参加

- ① 様々な想定に基づいた訓練を積極的に実施した。
- ② 防災、減災対策の課題を共有しつつ、マニュアル、対応についての見直しを行った。

(8) 近隣に居住する保護者の少ない園ではあるが、今後は地域の子育て支援の機能を強化すべき取り組みの展開

- ① 保育園が地域子育て支援のニーズにこたえていく役目は年々増加している。地域の子育て家庭とつながることの必要性を考え、地域の親子への園行事への参加の案内等、取り組みは進めてきた。地域と一体となった支援には十分結びついていないが、地域の民生委員・児童委員さんとも連携し、園児確保や開かれた園づくりを今後も考えていきたい。

(9) 園舎改築についての取り組み

- ① 平成31年2月からの解体作業ののち、4月より新園舎の建設が始まり、令和2年2月下旬に完成。仮設園舎の解体、借地の返還も年度内に終了した。
- ② 園舎北側の土地(約218㎡)を購入し「第2園庭」とした。固定遊具を設置し、園庭、第2園庭、屋上広場と戸外で遊ぶ機会が多く持てるようになった。

◆組織の状況

令和2年3月31日現在

定員	120名
職員数	28名(正職12名、臨職10名、パート6名)
保育時間	平日(7:30~19:00) 土曜(7:30~17:30)
早出、居残り児童	早出児童40名、居残り児童95名
土曜日の午後保育	登録園児数40名、平均利用人数20名

※家庭支援推進加配保育士1名、臨時職員10名中に特別支援担当保育士2名、特別支援加配保育士1名を含む

パート職員 6 名は延長保育時間対応（3 時間～6 時間パート）
 嘱託医内訳（歯科医 1 名・内科医 1 名）

◆在籍児童数

令和 2 年 3 月 3 1 日現在

年齢別	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合 計
児童数	1 5	1 9	1 9	1 3	1 9	2 2	1 0 8

◆年度別：月平均在籍児童数

年 度	2 7 年度	2 8 年度	2 9 年度	3 0 年度	元 年度
3 歳児以上	5 5 名	5 5 名	6 1 名	6 1 名	5 4 名
3 歳児未満	6 5 名	6 5 名	5 9 名	4 5 名	5 1 名
計	1 2 0 名	1 2 0 名	1 2 0 名	1 0 6 名	1 0 5 名

◆令和元年度 月別児童数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
総数	98	98	100	102	105	107	110	109	108	108	108	108
入所	0	0	2	2	3	2	3	1	0	1	0	0
退所	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	0	0

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・ 4 名
- 給食・アレルギー関係研修・・・・・・・・ 5 名
- 保育士研修・・・・・・・・・・ 2 5 名（高知県保育士会）
- 保育業務に関する研修・・ 8 8 名（特別支援(障がい児)保育研修会・家庭支援研修会、園評価について、人権研修、絵本・遊びの研修、カウンセリング研修・プール・衛生、感染症、リズム研修、保育の日、ほっとポートの研修、キャリアアップ研修、園長研修、主任研修）
- 保小連携研修・・・・・・・・・・ 5 名
- 防災研修・・・・・・・・・・ 4 名

◆令和元（平成31）年度主要な年間行事

- 4月 入園式、顔合わせ集会、乳幼児組別懇談会、個別懇談、高知市交通安全教室
- 5月 春の交通安全運動出発式（年長児）、こいのぼり運動会、全園児健診、わんぱくこうち行き（年長児）、劇団飛行船観劇（年長児）、検尿（4・5歳児）
- 6月 保育参観、離乳食試食（0歳児）、親育ち研修会、プール開き、歯科検診、不審者侵入訓練、園児・小学生（1年）の実践交流
- 7月 市営プール行き（年長児）、七夕まつり、夕涼み会、夏の水遊び、園児・小学生（2年）の実践交流（忍者修行アスレチック）
- 8月 第六小教員保育見学、保小連携合同研修会、大掃除
- 9月 通報総合避難訓練、敬老慰問、敬老の日行事（祖父母への手紙を出す）、未満児健診、秋の交通安全出発式、総合通報避難訓練（地震、火災）
- 10月 運動会、お芋ほり、園児・小学生の実践交流（おもちゃまつり）
- 11月 木曜市お買物（年長児）、親子遠足（みかん狩り）、筆山の山登り、家族のプレゼント、保育の日、全園児健診、園児・小学生の実践交流（学習発表会リハーサルを見る）、就学前健康診断
- 12月 生活発表会、クリスマス会
- R2/1月 お餅つき、初詣、お正月あそび、オーテピア未来科学館（風で遊ぼう）（年長児）、バザー・お店やごっこ
- 2月 豆まき、小学校一日入学（5歳児）、交通公園安全教室（年長児）、新園舎引越、未満児健診
- 3月 通報総合避難訓練（火災）、新入児保護者会、卒園式

- その他 ◆ 毎月お誕生日会、避難訓練を行っている。
◆ 個別相談、育児相談は必要に応じて行っている。

※ 令和2年2月下旬より、新型コロナウイルス感染症の全国的な流行により、行事の見直し縮小が言われ、内容を変更、中止したものがある。

開園以来72年を経過し、本園は地域園芸農家及び勤労者家庭の児童の福祉増進に寄与してきたところですが、近年、核家族化の進展、急速な少子化の進行、家庭・地域を取り巻く環境の変化に対応し、子どもや保護者に必要な支援が求められています。一人ひとりの子どもが健やかに成長するよう、保護者に対する支援と地域の子育て家庭に対する支援を職員の専門性を活かしながら取り組んできました。

◎令和元年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 一人ひとりを大切にした保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障

- ① 子どもの心を受け止め相互的なやり取りを重ねながら、見通しをもった育ちの援助を行った。
- ② 家庭と連携を密にし、子どもが安心して過ごせる場となるよう援助や関わりを行った。
- ③ 年間計画を立て一人一人の成長に合った見通しがもてる保育に努め、子どもが健やかに成長し、豊かな活動に取り組めるよう援助を行った。

(2) 早出・居残り、乳児保育、特別支援保育等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供

- ① 保護者の就労時間に応じた長時間保育を行った。
- ② 乳幼保育では積極的に取り組み、途中入所も受け入れ園児の増加に努めた。
- ③ 障がい児保育では研修に参加し、専門知識を身につけ保護者とともに子どもの育ちや支援に努めた。また園の行事では、装具の創意工夫こらし出来る限り他児と同じようにできるように努めた。

(3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、園庭開放等保育所地域活動事業の実施

- ① 園庭開放は、年間9名の来園者があり入園にも結びついた。
- ② 異年齢児交流では、卒園児童との異年齢交流の中で豊かな生活体験を始め保育内容の充実に努めた。
- ③ 世代間交流事業では、老人宅訪問をする中で人をいたわり、思いやりの気持ちが育つよう努めた。
- ④ 地域のイベントにも参加するように努めた。(みなと未来まつり、三里地区夏祭り、三里地区防災フェア)

(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援

- ① 職員会や園内研修などで、園児の特性等の情報を職員間で共有し、個々の対応に連携して取り組んだ。
- ② 家庭環境に対する支援については、職員間の連携を図り関係機関とも協働・連携した取り組みを行った。

(5) 保育士の資質向上と保育水準の向上

- ① 保育実践や研修などを通じて保育の専門性を高め、職員同士の共通認識をもった取り組みをした。キャリアアップ研修にも参加し質の向上に努めた。

(6) 保護者の就労支援の為、延長保育の実施

- ① 保育が必要な家庭を対象に、平日午後7時00分までの延長保育に努めた。また、就労だけでなく家庭状況に応じて対応した。

(7) 園児の体力づくりのための体操指導、英語講師による異文化への関わりの実施

- ① 体を動かす楽しさ、大切さを知り柔軟な体づくりに取り組んだ。
- ② オーストラリア出身の講師と一緒に、英語を交えたゲームや遊びの実施に取り組んだ。

(8) 避難訓練や防災活動の実施、及び関係機関と連携

- ① 地域の中学校との合同訓練や自園の津波避難訓練計画に基づいた避難訓練、また防災活動を実施した。中学校とは、合同訓練を行い高知東警察署・三里交番の方とも合同訓練をし、評価をいただき次の訓練に活かすようにしている。
- ② 防災対策、マニュアル等に基づく実践、不審者対策等様々な想定をふまえた訓練を実施した。

(9) 健康の取り組み

- ① 4、5歳児を対象週5回を目安に、フッ化物洗口液でうがいを行った。
- ② 3歳児を対象に歯ブラシ指導を行った。
- ③ 痙攣を起こすリスクのある園児がいることから「痙攣が起こったらどうするか」をシュミレーションし園内研修で振り返りを行うことにより対応について理解を深めた。
- ④ 乳幼児の心肺蘇生人形を使用し園内研修で講習会を行った。
- ⑤ 感染予防対策として効果があるといわれている「あいうべ体操」の健康教育を講師を招いて幼児組対象に行った。

(10) 食育の取り組み

- ① 毎月19日の「食育の日」を職員に意識させ、食に関する絵本を読み聞かせる等園児に興味を持たせる様にした。
- ② 幼児組を対象に、クッキング保育や年3回の食育集会、年長児に向けて「だし」の味比べをして和食の大切さを知らせた。
- ③ 保護者に向けて食育だより・給食だよりの配布、行事食についての提示、子ども好みの給食やおやつレシピの配布等を行い、関心を持たせた。

◆組織の状況

令和2年3月31日現在

定員	90名
職員数	25名（正職9名、臨職8名、パート8名）
保育時間	平日（7:30～19:00） 土曜（7:30～17:30）
早出、居残り児童	早出児童74名、居残り児童74名

※嘱託医内訳（歯科医1名・内科医1名）

◆在籍児童数

令和2年3月31日現在

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
児童数	9	19	14	12	12	23	89

◆年度別：月平均在籍児童数

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
3歳児以上	64名	54名	55名	46名	46名
3歳児未満	39名	35名	30名	38名	40名
計	103名	89名	85名	84名	86名

◆令和元年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	84	85	85	85	85	86	86	89	90	89	89	89
入所	0	2	2	0	0	1	0	4	1	0	0	0
退所	0	1	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・7名
- 給食関係研修・・・・・・・・7名
- 保育士研修・・・・・・・・37名(高知県/高知市/全国保育士会)
- 保育業務に関する研修・・75名(特別支援保育研修会・発達支援、リズム&ダンス研修・人権研修他)
- 危機管理研修・・・・・・・・2名
- 防災研修・・・・・・・・・・10名

◆令和元年度主要な年間行事

- 4月 入園式・対面の日、内科健診、幼児組懇談会、こども 110 番訪問(4・5 歳児)
 - 5月 親子こいのぼり運動会、乳児懇談会、職場体験(中学生)、家族の日
みなと未来まつり
 - 6月 小学一年生里帰り、三里まつり、歯みがき指導(学園短大生)、歯科検診、
交通安全教室(幼児組)、地域津波避難訓練不審者訓練、尿検査(4・5 歳児)
 - 7月 プール開き、七夕笹飾り(祖父母)、参観日、地震津波避難訓練(東警察署・
三里交番合同)、三里地区夏祭り(4 歳児)
 - 9月 敬老慰問、地震津波避難訓練(東警察署・三里交番合同)
 - 10月 運動会、内科健診、幼児組園外保育、火災避難訓練、芋掘り、サッカー教
室(高知大)
 - 11月 地震津波避難訓練(東警察署・三里交番合同)、記念写真、年長児お買い物、
保育の日、勤労感謝慰問、歯科検診、就学前健康診断
防災フェア(5 歳児)
 - 12月 もちつき、お店屋さんごっこ、人形劇観劇、クリスマス会、不審者訓練
 - 2/1月 乳児組懇談会、地震津波火災避難訓練(中学校・東警察署・三里交番合同)、
火の用心(5 歳児)
 - 2月 豆まき、小学校一日入学(5 歳児)、生活発表会、交通安全教室(5 歳児)
幼児組懇談会、三里小学校おもちゃまつり
 - 3月 卒園式、お別れパーティー、新入児保護者会、お別れ遠足、不審者訓練
- その他 ◆ お誕生会、火災避難訓練、体操・英語教室は毎月行っている。
◆ 食育集会、健康集会を学期に1回行っている。